

【大胡の1コマ】 地区を代表する景観構成要素

ふるさと自慢〔住む人の声〕

歴史

大胡城と大胡神社

風の軸

赤城おろし、荒砥川の風、水田を渡る風

音風景

生活の一部に溶け込んでいる音（上毛電鉄の電車が通過する音、鈴虫の音）

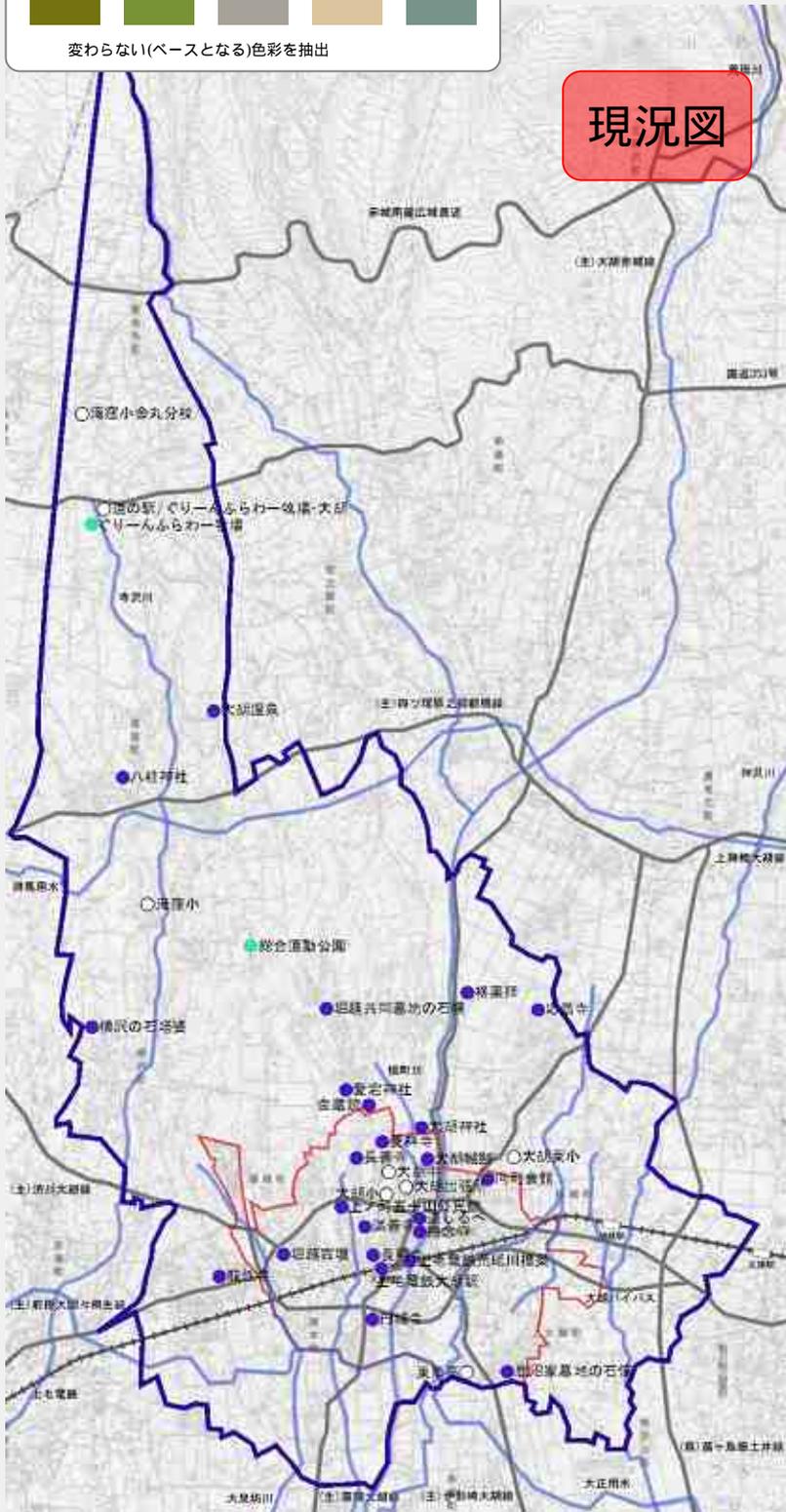
赤城山遠望軸

水田と赤城山



変わらない(ベースとなる)色彩を抽出

現況図



地区の課題

景観にかかる課題1

赤城南麓における東西・南北交通路の要地であり、日光裏街道沿いの市場・宿場町としての面影を残しつつ、周辺には田園風景の広がる地区だが、近年は開発や建替えなどが進み、田園風景や大胡宿の面影が失われつつある。

景観にかかる課題2

昔から交通の結節点として栄え、参宮街道、赤城神社街道、日光裏街道、大間々街道、産泰神社街道などの旧街道が走っており、またその名残として、土蔵、下駄屋、配給所、石仏、石塔婆、道しるべ、道祖神などの地域資源が残されているが、その立地特性と歴史性が失われてきている。

景観にかかる課題3

大胡城跡や大胡神社のほか、長善寺、長興寺、養林寺、金蔵院、龍性寺、満善寺といった寺院の多い地区であるが、保全や修景といった景観面からの取り組みが十分でない。

体制にかかる課題1

大胡神社の太々神楽、満善寺の火わたりなど赤城信仰が今も受け継がれており、これらを地域文化として継承していく必要がある。

体制にかかる課題2

祇園祭や燈籠コンクールなど、地域住民活動をより活発化させていく必要がある。



街

単独の文化・経済圏であったが、車社会が進むにつれ昔ながらの商店が姿を消した

人の動き

前橋市街地からの流入増

地形

いろいろな街道が交わる地形により、訪れる人々が一休みしたくなる立地であった。赤城山の麓に位置するため、妙義、榛名、八ヶ岳及び浅間山の眺望が可能である

人

多くの伝統芸能や行事が大切にされ受け継いでいる。
画家・角田幸夫(さちお)赤城山を描く

樹木

大胡小の大ケヤキ、松の木大臣

街道

参宮街道、赤城神社街道、日光裏街道、大間々街道、産泰神社街道、赤城風ライン

祭

大胡祇園祭り

→ **地区の方針**

景観形成方針 1

赤城南麓の雄大な裾野を形成する地区の一つであり、赤城山を背景とした田園風景を守る。

景観形成方針 2

地区から見下ろす市街地と緑の層の眺め、妙義山、榛名山、八ヶ岳及び浅間山の眺望など、地区に点在する眺望軸を確保する。

景観形成方針 3

大胡駅及び周辺一体の鉄道施設、上毛電鉄の走行風景や電車の走る音、荒砥川の土手の季節感ある風景が、地域の子どものたちの原風景となるよう環境づくりに取り組む。

景観形成方針 4

旧街道では、沿道に残る石仏、道しるべ、道祖神などの地域資源と合わせて、歴史性を踏まえた修景を行うとともに、一休みしたくなる仕掛けを設け、往年の人の行き交う風景をつくり出す。

景観形成方針 5

旧大胡宿としての面影を伝える、土蔵、下駄屋、配給所、石仏、石塔婆、道しるべ、道祖神などを、身近な地域資源として残す。

景観形成方針 6

大胡城跡や大胡神社、長善寺、長興寺、養林寺、金蔵院、龍性寺、満善寺などの寺院は、文化財としての価値も高く、貴重な歴史的資産として保全するとともに周辺区域も含め修景を行う。

体制整備方針 1

大胡神社の太々神楽などの赤城信仰が子供たちにも受け継がれるよう、地域住民活動に対する柔軟な支援体制を整える。

体制整備方針 2

祇園祭や燈籠コンクールなど、景観づくりに寄与する地域住民活動に対する柔軟な支援体制を整える。

体感・体験図〔住む人の目〕

